祈りの原則

□はじめに

前回、2019年8月25日の集会にて、約2年にわたる「ヘブル人への手紙」シリーズを終えました。次は「使徒の働き」シリーズをと考えておりましたが、ヘブル人への手紙の中で、重要な箇所のひとつとして、次の箇所がありました。

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。（ヘブル4：16）

これは、信者が天の父に祈っているときの霊的現実です。単なる絵画的な表現ではなく、霊の世界で現実に起きていることです。祈りによって、信者は神に近づき、神から助けと祝福を受け取り、霊的に成長します。

祈りについて、聖書はどのように教えているのか、学ぶことといたします。

□祈りに関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの３つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「祈りの原則」のアウトライン

1. 祈りとは
2. 祈りを象徴するもの
3. 祈る理由と目的
4. 祈りのすすめ
5. 祈りの約束
6. 祈りのアウトライン
7. 祈る場所
8. 祈る時
9. 祈るときの姿勢
10. 祈りの力と結果

□祈りとは

1. 聖書の用語（ヘブル語）

(1) Ⅰ列8：22～54　神殿奉献の際のソロモン王の祈り

(2) 54節　「祈り ヘ テフィラーと願い ヘ テキナー」

① ヘ テフィラー　とりなし　・・・ソロモンは神と民の間に立って、民の罪を赦してくださるようにとりなした。祈りは、とりなしである。

② ヘ テキナー　願い求めること　・・・ソロモンは、具体的にいろいろなことを神に願い求めた。祈りは、願い求めることである。

(3) Ⅰ列13：1～6　北王国のヤロブアム王が、神のさばきを受けて腕の筋肉が萎縮して動かなくなったときに、神の人（無名の預言者）にとりなしの祈りを要請した

(4) 6節　「あなたの神、主にお願いをして ヘ カゥラゥ、私のために祈ってください」

① ヘ カゥラゥ　懇願する　・・・このヘブル語の語源は弱くされる、憔悴する、嘆く、という意味である。平常心で願うというようなものではなく、必死に、青ざめて、涙ぐみながら、というようなニュアンスも含んでいる。日本語では、嘆願するという訳語がよいかもしれない。祈りは、嘆願である。

2. 聖書の用語（ギリシヤ語）

(1) ギ エスコゥマイ、ギ プロセオゥコゥマイ・・・何かを頼む　→　祈りとは、神に何かを求めることである。最も一般的に「祈る」と訳されることば。

(2) ギ デオゥマイ・・・何かを頼むことであるが、より具体的な内容を伴う

① Ⅰテサ3：10　ただ会えるようにではなく、信仰の不足を補いたいと願う祈り

(3) ギ アイテオゥ・・・要求する

① ヤコブ1：5　「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」

(4) ギ エロタオゥ・・・要求する、頼む

(5) ギ エントゥグカノゥ・・・とりなす

① ローマ8：27　「御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。」

② とりなしをするのは、聖霊だけではなく、天においては大祭司なるイエスが私たち信者のためにとりなしをしてくださる（ヘブル7：25）

③ 私たち信者は祭司（Ⅰペテロ2：5）として、とりなしの祈りをする。とくに霊的なリーダーは群れの信者たちのためにとりなしの祈りをする責任がある（ヘブル13：17）。

(6) ギ パラカレオゥ・・・慰める、励ます、要求する、アピールする　→　特に神との関係をアピールして求める祈りである。

① Ⅱコリ 12：8　「このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。」

(7) ギイケテイリア・・・嘆願

① ヘブル 5：7　原文の語順に即して訳すと、「祈りと願いを、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって、ささげ」

3. 祈りの定義

(1) 祈りの3つの面

① 祈りとは、人が神に向かって語ることである。

② 祈りとは、神に何かを求めることである。

③ 祈りとは、神との会話である。

(2) 聖書を学ぶことと祈りの違い

① 聖書を学ぶときは、神が私たちに話しておられる。

② 私たちが祈るときは、私たちが神に話している。

4. 祈りの前提

(1) 神は人格を持った存在である。それゆえ、私たちは、神との間で、私と「あなた」という関係を持つことができる。

(2) 神は霊的な世界におられ、私たちとの間には時間的物理的距離はない。私たちが祈るときに、神はその祈りをその瞬間に聴いていてくださる。

(3) 神は同時にどこにでも存在できるお方である（神の遍在性）。それゆえ、日本の信者が祈り、同時にアメリカの信者が祈っても、神はすべての信者の祈りを聴いておられる。（天使は霊的存在であるが、天使には遍在性はない）

(4) 神は万物の支配者である。神はすべての人々を支配し、すべての出来事を支配しておられる。神が主権者であることを信じるがゆえに、私たちは神に願い求める。

(5) 神は全知である。神はすべてを知っておられ、信者の祈りにどう答えるのがベストか知っておられる。

(6) 神は全能である。神はすべてを成すことのできるお方である。

(7) 神は約束を与えるお方、そして約束に真実なお方である。神が約束されたことについては、神は必ず傾聴してくださる。

5. 祈りの性質

(1) 祈りは、行為である。祈りという具体的な行為をしないで、ただ願っているだけでは祈りではない。そして、日々の生活の中で、必須の実行行為のひとつとなっていなければならない　→　Ⅰテサ 5：17「絶えず祈りなさい」　信者は毎日、神と会話すべきである。

(2) 祈りは、神の子どもとしての地位にあってする行為である（ルカ 11：2「父よ。」、11：3「天の父が」）

(3) 祈りは、信者が神に何かを頼むことである。

① 漠然と「恵みをください」ではなく、具体的に何をと願うこと

② 緊急を要するときには、すぐに祈り、神の応答を求めること

③ 神との人格的な交わり、会話なのだから、感情が入るのは自然なこと

④ 父と子との関係において願うのだから、子として願うこと

6. 祈りの基盤は、信仰

(1) 私たちの祈りの生活（prayer life）の第一の基盤は、信仰である。神を神とする信仰である。

① Ⅱテモ 1：12　私は、自分の信じて来た方をよく知っており

② 詩篇 18：31　まことに、主のほかにだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。

③ 詩篇 46：1　神はわれらの避け所、また力。

(2) ハバクク 3：18～19　「しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる」

① ハバクク 3 章は、大患難期末期のハルマゲドンの戦いに関する預言である。ハルマゲドンの戦いは、8 つの段階で展開する。

- 16～17 節は、第 3 と第 4 段階（反キリスト軍による攻撃、エルサレム→ボツラ）
- 3 節は、第 6 段階（メシアの再臨）
- 13 節は、第 7 段階（反キリスト軍の壊滅）

② ハバクク 3：18～19　神への信頼の表明

- 神は信頼されるべきお方である。状況がいかに展開しようとも。
- 信者は神を信頼して祈る。自分が祈った通りには神が答えてくださらないとしても、神が最善をなしてくださることを信じて祈り続ける。
- 祈りの基盤は、神を神として信じる信仰である。自分が中心の信仰ではない。

□祈りを象徴するもの

1. 旧約聖書

(1) 詩篇141：2　「私の祈りが、御前への香として、私が手を上げることが、夕べのささげ物として、立ち上りますように」

(2) 香をたく・・・出30：1～8

① 7節　アロンはその上でかおりの高い香をたく。朝ごとにともしびを整えるときに、煙を立ち上らせなければならない。

② 8節　アロンは夕暮れにも、ともしびをともすときに、煙を立ち上らせなければならない。

(3) 香の調合・・・出30：34～38

① 34節　ナタフ香、シェヘレテ香、ヘルベナ香、これらの香料と純粋な乳香

2. 新約聖書

(1) 黙5：8　この香は聖徒たちの祈りである。

① 24人の長老たちは、携挙された教会の聖徒たちを代表する。

② 黙4：4　白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった24人の長老たち

③ 携挙された後、教会の聖徒たちは、キリストの裁きの座を経て、報奨を与えられる。報奨は、各種の冠である。（Ⅱコリ5：10、Ⅰコリ3：10～15、Ⅱテモ4：8、黙2：10）

(2) 黙8：3～4　彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。

3. まとめ

(1) 香の祭壇が設けられたのは、主の前に甘い香りの煙を立ち上らせるためであった。

(2) このことは、主が聖徒たちの祈りをどのように受け取られるのかを教えている。聖徒たちの祈りは、主にとって、心地よい甘い香りのように受けてくださる。

□祈る理由と目的

1. 祈ることは、神の命令である。
   (1) 祈るかどうかは、信者の選択ではない。神の命令である。Ⅰサム 12：23 では、他の人のために祈らないことは罪である。
   (2) 神は、それぞれの信者に、ケアすべき他の人を割り当てる。もし、信者がその他の人のために祈らないなら、その信者は罪を犯しているのである。
   (3) 信者は、神から負託された人のために、祈るべきである。
   (4) Ⅰテサ 5：17　絶えず祈りなさい。
   (5) コロ 4：2　たゆみなく祈りなさい。
2. 祈ることは、正当なことである。・・・ルカ 18：1「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された」
3. 神は祈りを通して、良きものを与えてくださる。・・・ダニ 9：3、マタ 7：7～11、21：22、ヤコ 1：5)
4. 祈りは、勝利するために不可欠である。・・・エペ 6：10～18　武具の大部分は神のことばである。これらを身に着け、そして勝利するために必要なことは、18 節「すべての祈りと願いとを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい」。そうすれば、11 節、「悪魔の策略に対して立ち向かうことができる」
5. 祈ることは、メシアの模範に従うことである。イエスはしばしば祈った。・・・マルコ 1：35、ヘブ 5：7
6. 初代教会の聖徒たちも祈った。・・・使徒 6：4、12：5
7. 祈りは、困難な状況から救い出されるときの脱出路である。・・・祈りを通して、神は信者を救出する。誘惑から（マタ 26：41)、失望から（ルカ 18：1)、苦境から（使徒 12：3～9)、無知から（コロ 1：9、ヤコブ 1：5)、神がそう選ぶなら病気や死から（使徒 28：8、ヤコブ 5：13～17)、経済的不足から（ヤコブ 4：2)、不信仰な人々からの迫害から（ロマ 15：31)、悪魔から（エペ 6：18)。
8. 祈りは霊的に成長するための経路である。
   (1) 霊的な武具を身に着けて戦う領域は、祈りの場である。戦いを通して祈った本人が強くなり、霊的に成長する。(エペ 6：10～18)
   (2) とりなしの祈りによって、祈られた信者が霊的に成長する（エペ 1：15～23、3：14～21、コロ 1：9～14)
   (3) 祈りによって聖霊に満たされ、大胆になる・・・ペテロやヨハネの例（使徒 1：14「祈りに専念していた」、3：1「祈りの時間に」、4：8「聖霊に満たされて」、4：13「ペテロとヨハネの大胆さを見、」）エペソ 6：18～19「大胆に知らせることができるように私のためにも祈ってください」
   (4) 祈りによってイスラエルが回復される（ロマ 10：1)
   (5) 祈りを経て、福音宣教の担い手とされる（マタ 9：37～38　→　10 章で使徒任命）